

# 食文化創造都市にいがた推進計画 令和5年度進行状況報告書

令和6年3月 食と花の推進課

## 1. 本計画について

「食文化創造都市にいがた推進計画」は、食で選ばれるまち・にいがたを目指すため、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向けると共に、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげることを目的に平成29年3月に策定された。

本計画期間は令和5年度までである。

## 2. 参考指標について

本計画は事業ごとに達成目標を設定し、達成状況を調査しているが、計画全体の社会への影響等を確認するため参考指標を設定し、毎年度調査することとしている。

なお、参考指標は関連計画の成果指標から選定。

## 3. 令和5年度事業数について

計画策定時（平成29年3月）の事業数は86事業、令和5年度の食文化関連事業は54事業で各施策別の内訳は表1のとおりである。

また、評価別の内訳は表2のとおり、「A:目標を上回った」が25、「B:目標通り実施できた」が16、「C:目標を達成できなかった」が13、「D:実施しなかった」が0となった。また、表3のとおり新型コロナウイルスの影響を受けた事業数は2であった。

目標を上回った、及び目標通り実施できた事業の割合は全体の76%となり、前年の令和4年度と比較して約11%増加した。

## 4. 評価及び所見について

本計画の指標となる事業は、食や食文化の普及に関するイベントが多く、昨年度はコロナ禍のため一部中止や内容を再検討して実施した事業が多かったものの、今年度は新型コロナウイルスが5類に移行されたことから、ほとんどの事業が予定通り実施された。

効果的に事業を進めるため、適宜内容の見直しや事業統合等を行ってきたことで、計画策定時と比べ事業数自体は減少したが、今年度は、実施事業のうち目標以上の実績だったものは7割を超えた。今後も本市の目指す食で選ばれるまちの実現に向け、引き続き効果的な内容、方法を検討しながら食や食文化に関する事業を展開していく。

表1 事業数(各施策別)

施策 No. (将来像-施策)	施策名	H28 (計画策定時)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
<b>将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち</b>									
1-1	食への理解の促進	15	13	15	12	11	9	8	9
1-2	食を生かした健康づくり	8	5	4	5	5	5	5	5
1-3	食文化の次世代への継承	13	9	7	7	7	7	7	6
<b>将来像1 小計</b>		<b>36</b>	<b>27</b>	<b>26</b>	<b>24</b>	<b>23</b>	<b>21</b>	<b>20</b>	<b>20</b>
<b>将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち</b>									
2-4	地域の魅力の向上	11	11	11	9	10	9	7	7
2-5	ガストロノミー ツーリズムの構築	5	5	5	5	5	3	3	3
2-6	他都市への発信と 都市間連携	5	4	5	4	4	4	4	4
2-7	国際交流の促進	6	6	5	5	5	4	4	4
<b>将来像2 小計</b>		<b>27</b>	<b>26</b>	<b>26</b>	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>20</b>	<b>18</b>	<b>18</b>
<b>将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち</b>									
3-8	新たな挑戦への支援	16	14	12	12	13	13	13	12
3-9	さまざまな分野への 食の活用	7	7	5	5	5	5	5	4
<b>将来像3 小計</b>		<b>23</b>	<b>21</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>16</b>
<b>事業数計</b>		<b>86</b>	<b>74</b>	<b>69</b>	<b>64</b>	<b>65</b>	<b>59</b>	<b>56</b>	<b>54</b>

表2 令和5年度事業数(評価別)

評価	事業数
A:目標を上回った	25
B:目標通り実施できた	16
C:目標を達成できなかった	13
D:事業を実施しなかった	0
<b>事業数計</b>	<b>54</b>

※施策1~9の合計値。

※令和6年2月末時点の評価

表3 影響度別 新型コロナウイルス感染症影響事業数

一部影響（延期・一部中止・内容を再検討した等）	2*
中止（今年度の開催を完全に中止）	0

※ヒアリング結果に基づいて計上。

**\*対策を講じたもの**

- ・（新潟シティマラソン）エイド食の提供は、新型コロナウイルス感染食拡大予防のため、個包装とした。
- ・（新潟シティライド）エイドステーションでの密を避けるため時差受付・スタートとした。

## 5. 各施策の進行状況

### 将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

施策1	食への理解の促進
主な取組	食と農のわくわく SDGs 学習推進事業 小学校との食育連携（コシヒカリ給食）
進行状況	地産地消や食育の推進など、市民の食への理解を深める取り組みを進めている。 令和5年度新規事業である「小学校との食育連携（コシヒカリ給食）」は、食育と地場産物の消費拡大を推進するため、西区内全小学校で給食に地元産コシヒカリを使用した。
目標の達成度	令和5年度事業数 9事業 A: 目標を上回った 3事業 B: 目標通り実施できた 4事業 C: 目標を達成できなかった 2事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の事業のうち、「料理教室」は、目標値を大きく上回った。 B評価の「若手料理人の育成支援」は令和5年度は内容を見直し、市内調理師専門学校4校で特別講義を実施した。今後は講義受講後の学生の成果発表の機会についても検討していく。 C評価の「地産地消推進事業」は目標値の新規認定数15件を下回り、認定件数は1件であった。

施策 2	食を生かした健康づくり
主な取組	農産物高付加価値化推進事業 ちよいしおプロジェクト
進行状況	脳血管疾患および胃がんの原因の一つとされる食塩の過剰摂取に対応するため、「ちよいしおプロジェクト」、「食生活改善推進委員養成講座・研修会」等により、市民の食を通じた健康づくりへの意識を高める取り組みを継続して実施した。
目標の達成度	令和 5 年度事業数 5 事業 A: 目標を上回った 1 事業 B: 目標通り実施できた 2 事業 C: 目標を達成できなかった 2 事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A 評価の「ちよいしおプロジェクト」では、飲食店との連携による野菜ちよいしおメニューを 24 店舗で提供し、減塩に関する情報を 30 回発信した。 B 評価の「農産物高付加価値化推進事業」では、新潟市食と花の銘産品に指定されているトマトやいもジェンヌの機能性成分調査など、4 件について支援等を行った。 C 評価の「食生活改善推進委員養成講座・研修会」は、計画的に養成講座を実施しているものの、会員自身の健康上の理由等による退会が多く、会員増につながらない状況である。

施策 3	食文化の次世代への継承
主な取組	地場産学校給食推進事業 レシピ集の活用
進行状況	地場産給食の推進、料理教室や郷土料理のレシピ集の活用など、次世代へ食文化を継承する取り組みを進めている。また、伝統野菜の維持・保存のための大学等連携した研究も行っている。
目標の達成度	令和5年度事業数 6事業 A:目標を上回った 4事業 B:目標通り実施できた 1事業 C:目標を達成できなかった 1事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「農業活性化研究センターにおける研究」は、大学との共同研究数が目標の15件を上回る17件となり、今後も企業等のニーズに即した研究を継続する見込みである。 C評価の「レシピ集の活用」は、食育・花育センターの食育ミニ体験でレシピ集掲載の「笹団子」「けんさ焼き」などの郷土料理作り体験を実施し、目標15回に対して14回の実績となった。

## 将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

施策4	地域の魅力の向上
主な取組	農家レストランの設置 収穫体験農園
進行状況	<p>各区が主体となって地域の特産品や食産業のPR、体験事業などを行っている。</p> <p>北区産業振興課では「キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン」としてラジオやテレビでトマトのPRを、西区農政商工課では「農業まつり」として、すいかの収穫期に合わせてすいかまつりを実施した。</p>
目標の達成度	<p>令和5年度事業数 7事業</p> <p>A: 目標を上回った 2事業</p> <p>B: 目標通り実施できた 4事業</p> <p>C: 目標を達成できなかった 1事業</p>
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	<p>B評価の「収穫体験農園」では、バスツアーの一環としてトマト収穫体験を実施した。収穫最適期は生産者の最繁忙期であり受け入れ農家を探すのが難しいものの、受け入れ農家の負担軽減策を検討することで、今後も継続していく。</p> <p>C評価の「新潟の食と花のPR事業」は発信回数目標150回に対して、57回となった。発信内容を精査したことで件数は目標に届かなかったが、今後も魅力的な発信を行い、フォロワー数増加にもつなげていく。</p>

施策 5	ガストロノミーツーリズムの構築
主な取組	観光客おもてなし態勢促進事業
進行状況	食と農と様々な地域資源を結び、地域の魅力を一体的に体験できる新たな観光形態「ガストロノミーツーリズム」の構築を図るため、魅力発信・誘客推進事業などに取り組んできた。
目標の達成度	令和5年度事業数 3事業 A: 目標を上回った 2事業 B: 目標通り実施できた 1事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「米と酒を中心としたプロモーション事業」では、プロモーションムービーの利用申請が3件あり、テレビや日本酒関連イベントで放映された。 B評価の「魅力発信・誘客推進事業」では、市公式観光情報サイトの掲載内容の充実を図るとともに必要な情報提供を行った。

施策 6	他都市への発信と都市間連携
主な取組	特産農産物のPR・情報発信 地産外商推進事業
進行状況	他都市へ向けた食の魅力のプロモーションや市産農産物などの販路拡大、他都市と連携した食の販路拡大・魅力発信に取り組んでいる。
目標の達成度	令和5年度事業数 4事業 A: 目標を上回った 3事業 B: 目標通り実施できた 1事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「地産外商推進事業」では、コロナ禍による行動制限等が緩和されたため、大都市での試食宣伝等を積極的に実施でき、市産食材販路拡大アプローチ件数は25件であった。 B評価の「観光拠点等におけるPR事業」では、百貨店で行われる物産展に出展することで、市産品等の販路拡大を図るとともに本市への誘客につなげることができた。

施策 7	国際交流の促進
主な取組	食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」
進行状況	インバウンドの拡大、農水産物及び加工食品輸出を狙い、海外向けプロモーションや商談会などを開催した。
目標の達成度	令和 5 年度事業数 4 事業 A: 目標を上回った 3 事業 B: 目標通り実施できた 1 事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A 評価の「フードメッセ in にいがた」は、来場者目標を達成し、出店者数、来場者数とも過去最大規模であった。 B 評価の「食の新潟国際賞」は第 8 回食の新潟国際賞開催に向け、最終候補者選考を実施した。

### 将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

施策8	新たな挑戦への支援
主な取組	技術開発補助事業 食文化創造都市推進会議の運営支援
進行状況	技術開発補助事業などにより、食に関わる事業者の商品開発、販路拡大などの取り組みを支援している。北区では「『しるきーも』特産化事業」、西区では「くろさき茶豆の消費拡大及び生産地域の活性化に関する支援」など、産地ごとに特産品のブランド化に取り組んだ。
目標の達成度	令和5年度事業数 12事業 A: 目標を上回った 7事業 B: 目標通り実施できた 2事業 C: 目標を達成できなかった 3事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「6次産業化サポート事業」は、8件の目標を大きく上回る16件の伴走支援を行った。今後は伴走型支援の充実を図り事業を継続していく。 C評価の「食の商談促進事業」は、事前マッチング制のオンライン商談会及び個別マッチングを実施した。事業者ごとに個別にフォローしたことから、件数そのものは目標値に届かなかったものの、効率よく商談やマッチングが成立したことから、事業者の状況に応じて継続して支援していく。

施策9	さまざまな分野への食の活用
主な取組	農・福連携事業
進行状況	本市の豊かな食を支える農業を様々な分野へ活用するほか、文化芸術、スポーツといった食以外の分野においても食の活用を進め、食分野の魅力と発信力の向上を図った。
目標の達成度	令和5年度事業数 4事業 C: 目標を達成できなかった 4事業
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	C評価の「新潟シティマラソン」は、新型コロナウイルス対策として個包装でエイド食を提供した。「農・福連携事業」は、コロナ禍での中止を経て3年ぶりにアグリ・ケア・プログラムを再開し、インストラクター養成研修を実施することで実施体制を整えた。利用件数の伸び悩みが課題であることから、多様な方法で事業周知を行っていく。